

新会長に就任してのあいさつ

この度日本放射線影響学会の新会長に就任することになりました。幹事会・総会で、学会員みなさまのご支援を受けてのことと思っております。前丹羽太貫会長の心行き届いた学会運営が小生にできるか、不安をかかえておりますが、みなさまのご協力を得まして任期をつつがなく、しっかりと務めさせていただきますと思っております。学問のますますの細分化からであろうか、学問の進歩に伴う学会の新生からであろうか、それとも本学会の運命であったと理解してよいのであろうか、学会員数が徐々に少なくなりつつありましたが、現在では1,000名程の会員数で推移いたしております。しかしながら、先の京都大会では内海博司大会会長によって、8月にブリスベンでICRRが開催されたにもかかわらず、大成功裏に大会がとり行われました。学会員の皆さんもお気づきのことと思いますがアジア・欧米からの参加者も数多く、実のある討論が盛んに行われました。

中国の程伊川のことばに「学者は全く時を識るを要す。若し時を識らざれば、以て学を言うに足らず。」とあります。今、新しい研究手法が激しく進んできております。今こそ、このような新技法を取り入れて、今まで理解できなかった放射線科学のさまざまな分野での研究テーマを積極的に解明する時でありましょう。また、同時に学会をとりまく情勢においても、アジア各国の間で日本がリーダーシップを発揮し、科学者相互の理解を深め、次世代の研究者の育成をめざすとともに、質の高い研究へと発展させることが強く求められている時でもあります。日本、アジア、さらには世界の中で放射線科学分野の中で、本学会会員一人ひとりがリーダーシップをいかに果たせるかを考えたいものであります。

学会運営も新たに「国際委員会」、「学会連携検討委員会」、「組織運営検討委員会」が組織されました。本学会の組織・運営の改革のみならず、本学会に近い分野の学会・研究者とも新たな関係を構築しようと考えております。形のみ整えるのではなく、機能不全に陥らない意識と活動を心がけたいと思っております。学会員みなさまのご支援、ご協力をお願い申し上げます。次第であります。

平成16年1月元旦

日本放射線影響学会 会長 大西武雄